

第3回京丹後市総合計画審議会の主な意見と対応について

<全体>

主な意見	対応
以前より読みやすいように工夫されていると思うが、計画全体的に、文章が長く読みづらい。	目標や4つの基本戦略など、箇条書きに修正
分かりやすい単語を使うようにしてほしい。	「海岸漂着物」を「海ゴミ」にするなど、意識して作成
難しい言葉には注釈をいれてほしい。	STEAM教育、Maasなど日本語で代替が難しい言葉は注釈を挿入など
計画内にQRコードを添付して、計画以外の市の情報を見れるようにするべきではないか。	P33にQRコードを挿入

<基本構想>

「幸福」という言葉について抵抗感のある高齢者が多い。政策で幸福にするというのは、個人の心に入り込んでくる感じがある。	P16 ウェルビーイング指標において、個人それぞれに異なる幸福感があることを尊重するなどを説明として追加
ウェルビーイングは、中心に出てくるほどはまだ浸透していない言葉。市民総幸福という単語と両方入れる必要はないのではないか。	P16 ウェルビーイング指標において、説明

<4つの基本戦略>

4つの基本戦略はすべて大事なので、順番はこのままで良いのではないか。 「はぐくむ」「ささえる」「かせぐ」「つなぐ」	対応不要
順番よりも、循環してすべてを伸ばしていくイメージが大事。また、それ以上に一つ一つを分かりやすく（読みやすく）してほしい。	P3及びP25 循環してすべてを伸ばしていくというイメージで図を作成
「かせぐ」を基本戦略の一つに掲げることにについて、老人などの稼げない人を排除するのではなく、そういう人も含めてみんなで育て、地域一体で稼ぐようにしていくことが大事。	対応不要

<まちづくりの施策>

資料3の「私たち市民にできること」については、強制されているように感じる記載もあるので、書き方に注意すべき。箇条書きで簡単で取り組みやすそうなことを書くべき。	P37及びP38 箇条書きで、できるだけ簡潔に記載。
---	-------------------------------

<その他意見>

主な意見	対応
農業の物流の課題を解決できないか。地域商社をもっと使いやすく。	P32 地域商社について記載
観光と食の連携を強める。(レストランで、農作物を販売するなど)	P32「農商工観連携」や、食を活かした観光などについて記載
地域資源を磨き、地域一体として稼ぐことは、対外的にも魅力的なまちに映り、住みたいという人も出てくると思う。	P31「かせぐ」の前文で、ひととしごとを呼び込む循環の確立について記載
地域内の子どもたちに対して地域産業に触れる機会を作るのは大事。	P27「学びの変革プロジェクト」に、記載
芸術や文化に身近で触れていただける機会を作って、その技術や文化を繋いでいくような取り組みが必要。芸術家などリスト化し、その人同士が繋がっていくことが大事。	P33「歴史・文化を継承し誇りあるまちづくり」に一部記載
行政だよりになりすぎる人（団体）もあるが、民間と行政がそれぞれの役割でうまく連携していければよい。	P34「公民連携による取組の促進」に記載
100歳の人がたくさんいる（長寿）ということも良いことだが、みんなが孤立せずに生きていける地域、居場所（趣味など）があることの方が大事。	P34「人と人をつなぐ創造的なまちづくり」に、記載
誰一人取り残さない京丹後市をつくるため、みんなが情報を取りこぼさないようにお年寄りから子供まで地域の中で交流し合う（世代間交流ができるまち）というのを目指すべき。	同上
ヘルプマーク（援助や配慮を必要な方々がそれを知らせるマーク）など、そういったことを説明する（認知を広げる）ページを作っても良い。	今後、冊子を作成する上で、空白ページを利用し啓発を図るなど検討
子育てについて、お母さんを積極的に支援するというよりも、子育てする親が学ぶ場の提供（オンライン）など、主体的に子育てしていけるような環境を整えていく、促していくような施策を行ってほしい。	P27「目指せ子育て環境日本一」に相談しやすい体制など記載